

# 県事研会報

第71号

平成15年3月19日

発行人 熊本県学校事務研究協議会会長 原口 豊

編集代表 事務局長 藤川 英一

事務局 熊本市立桜木小学校内  
〒861-2118熊本市花立2丁目23-1  
096(368)6095 Fax 096(331)1514

< 今回の主な内容 >

- ・巻頭挨拶
- ・副会長所感
- ・第28回県事研大会  
上益城地区発表レポート  
アンケートまとめ
- ・理事会だより

## 一年間の感謝をこめて

会長（一の宮町立宮地小学校） 原口 豊

昨日、熊本市の桜の開花予想日が3月19日と発表されました。この原稿を書いている今、阿蘇の山々には雪が積もっています。たぶん最後の雪かも知れません。そして、一日一日と暖かくなって、心はずむ春がやってきます。

この一年間、会長という身に余る大役を仰せつかり、緊張の中で一年間を過ごしてまいりました。しかしながら、会員の皆様、理事の皆様、そして、事務局、研究部の皆様の献身的なご助力・ご協力により、県大会をはじめとする県事務研の様々な活動が無事に終わられますことを心から感謝申し上げます。

また、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県市町村教育委員会連絡協議会、熊本県小中学校長会をはじめ多くの皆様方から本会に対してご理解を賜り、多大なご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。今後とも一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

14年度もまた、私たち学校事務職員にとりまして様々な課題が多くあったように思います。

義務教育費国庫負担に関しましては、会員の皆様、関係各位のご努力によりその制度が維持されることになりましたが、学校栄養職員が栄養教諭になるということも出て参りました。このことにより学校において教諭以外の職は県費職員では学校事務職員だけということになり、義務教育費国庫負担制度からはずされる危険性も考えられます。

共同実施につきましては、本県でも様々な実践が行われていると思いますが、学校事務職員の生き残る道は共同実施以外にはないということも言われており、各地区での実践を期待したいと思います。本年度の研究大会でも共同実施を行うとしたらどういことができるのかという視点で研究部が発表を行いました。是非参考にさせていただきたいと思います。

年度初めのご挨拶で、次のようなことを述べさせていただきました。

「本会は、先達の意志を受け継ぎながらも、学校事務職員のそして熊本県学校事務研究協議会の未来を考えながら、その時代に沿った改革を行っています。「誰もができる県事務研の役員」「誰から見ても透明性のある運営」ということで会則改正や細則の設置等を行ってきました。本年度は事務局長・事務局員の選出について会員の皆様方のお知恵を拝借したいと考えております。」

おかげさまで、事務局長・事務局員の選出につきましては一定のルールづくりができつつあります。また、「透明性のある運営」ということに関しましてもご理解がいただけているのではと思っています。県事務研が一層の発展をしていくためには、会員の皆様のご理解、ご協力が肝心なことはいまでもありません。会員の皆様お一人お一人が、事務研の運営に携わっているんだというお気持ちで、県事務研を見守っていただきたいと思います。

一年間本当に有り難うございました。ご協力に心から感謝申し上げます。

# 「二年間を終えて」

副会長（熊本地区理事） 龍田中学校 桑原 義勝

熊本市の会長として、また県事務研の理事として2年間に過ぎようとしています。熊本市事務研の直面する問題の解決や、日常的な運営など忙しい日々が続きました。その中で自分自身が今まで知り得なかった、事務職員の立場や役割を理解する機会に恵まれたことは、大変な収穫でした。学校事務を取り巻く周辺には大きな問題が山積しています。激動の時代が到来しているのではないのでしょうか。義務教育費国庫負担の問題が示唆している未来は決して楽観視できるものではありません。今こそ職務の確立を行い、一人一人が日々の実践の中からアピールしていかなければならないのではないのでしょうか。

事務職員の今おかれた状況は、厳しいものがあります。熊本市におきましても研修のあり方や共同実施のあり方などさまざまな課題を抱えています。昨年度から研修のあり方について、熊本市が中核市に移行した関係から、県主催の研修が市と県の間で位置づけが出来ていなくて、空白になっていました。本年度は位置づけが出来、研修を開催できたことを嬉しく思っています。また、共同実施においては、各方面の環境整備がまだ出来ていないように思われます。実際に動きづらいのが現状ではないのでしょうか。教育委員会と連携を図り、その実りある実践に結び付けなければなりません。その他財政オンライン・Cネットの導入問題など今後予想される課題はたくさんありますが、みんなで力を合わせて課題解決に努力していかなければなりません。

県事務研の理事として痛感するのは、地区にどのように県事務研を反映させていくか、また逆に地区の意見をどのように県事務研に反映させるかということです。熊本市のように会員数が多いと意見を集約する機会も少なく、なかなかうまくいきません。県事務研の研究活動は各地区の研究会の活動が基盤となっていることはいまでもありません。その意味でも各地区のよりいっそうの活性化をしなければならぬと思います。熊本市でも毎年のレポートについては大変苦労しているところですが、本部役員を中心に市内各地区研を通して研究及び研修活動に頑張っているところですが、今後も明日の事務職員像を考え、研究・研修活動を発展させなければならぬと思います。

県事務研では本年度の機構整備で、事務局員の選出がルール化されました。今まで不透明になっていた事務局員の選出が明確化されたことにより、今後の県事務研運営がスムーズに運ばれるようになると思います。誰もが積極的に参加できる事務局になるよう考えられたルールです。全地区・全会員の協力がなければ出来ません。県の研究大会は一つのテーマの下に分科会テーマが設定され、そこに各地区からのレポートを出していくスタイルをとっています。テーマに多様性があり、毎年のレポートを見ていると個々の立派な研究がその場の発表のみにとどまり、その個々の研究をつなげ、全体的な課題として問題点を集約することが今後重要になってくるのではないのでしょうか。その意味でも、各地区はテーマから考えられる継続性や計画性のある研究活動を続けていかなければならないと思います。最後になりましたがここまで県事務研の発展にご尽力された皆様に感謝申し上げます。「臆せず果敢に挑戦してこそ事は成就する」ありがとうございました。

# 「まず、始めましょう」

副会長（鹿本地区理事）鹿北町立岩野小学校 浅香幸一

県事務研の理事として2年間、副会長として1年間お世話になりました。

「県理事会に出席しても、何も発言できないのではないか。」

「地区や会員の意見が県事務研に伝わっているのか、伝えることができるのか。」

地区の会長を引き受けるときから不安だけで、さらに県理事会に出るとなると頭は真っ白、何も分からないまま「どうにかなるだろう。」と飛び込んだ県の理事会、そして研究部でした。

しかし、今2年間を振り返ると「充実した2年間」を過ごさせていただきました。緊張の連続でしたが、何はともあれ、考えて考えて3度考えたら「始める」ことが大切だと知りました。飛び込んでみて初めて分かるものだと思います。

不安ばかりで引き受けた地区の会長職であり県理事でありましたが、厳しい中に心温かな事務の諸先輩方に後押しされ導かれ勤め上げることができました。

県の理事会は、地区や会員から遠く隔たった雲の上のような存在と思っておりました。ですから、不安な気持ちといっしょに少し反発の気持ちも抱いて理事会に出席しました。しかし、理事会と事務局と研究部が協力しながら、ひたすら県事務研の発展のために頑張っておられることが痛いほどよく分かりました。非力ながら私も理事会や研究部担当副会長として少しばかりのお手伝いをさせていただきました。

私自身の未熟さは痛感しましたが「まず始めること」が大切と分かりました。考えてばかりではことは進まないと知りました。

特に、研究部の部員の皆さんの「積極的な取り組み」「若い力」に圧倒された一年でした。

県大会を綿密に計画して会員の研修がより深まるよう頑張っておられます。並行して、研究部としての5カ年計画の研究、会報の発行、事務必携の作成に努めておられます。本当に頭が下がります。

しかも何より、研究部に入るまではその仕事について何も知らないまま飛び込んで始められたということが素晴らしいです。大岩研究部長の言葉を借りますと「まだまだこれから発展していく」研究部であると思います。

平成15年度は、標準的職務についての研究が進められます。5カ年計画もいよいよ研究が深まってきました。研究部員の研究の熱心な取り組みをわくわくしながら期待したいと思います。

また、今後も会員の方には研究部へのご協力をお願いすると共に、何も分からないままで結構ですので勇気を持って県の役員や研究部に飛び込んでいただきたいと思います。

今教育界は大きく変わろうとしております。変化を先取りする気持ちで研修を重ね、新しい時代に対応した学校事務の在り方を探していかなければならないと思っております。

県事務研のますますの発展を願いながら、今後も一会員として参加していきたいと思っております。

ありがとうございました。

県事務研大会 第1分科会「学校経営と学校事務」 上益城レポート  
**「存在感のある学校事務職員になるために」アンケートのまとめ**  
 ～子どもたちや地域に視点を置いた広報活動の取り組み～

上益城郡学校事務職員研究会 環境分科会  
 (文責 下矢部東部小学校 告本哲也)

1 発表を終えて

我々上益城郡学校事務研究会環境分科会は、第28回熊本県学校事務研究大会第1分科会において「存在感のある学校事務職員になるために」というタイトルで、実践発表しました。

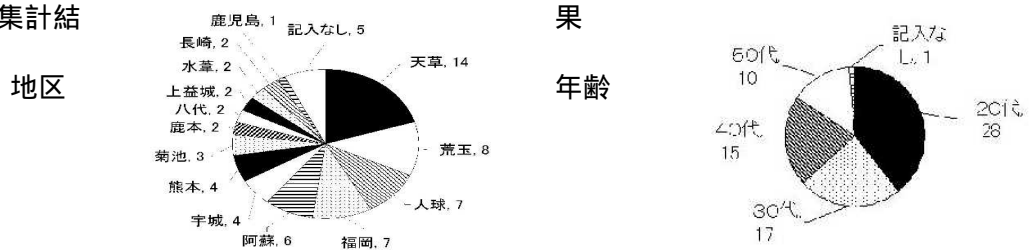
レポート内容は、環境分科会において昨年からの取り組みを始めていた、「子ども達や地域に視点を置いた広報活動の取り組みについて」でした。事務壁新聞、保護者向け事務室ニュース等の取り組みの紹介から、我々がどのような願いを持って実践を続けているか。また、この取り組みを始めることで、学校がどのように変わったか。ということが伝わればよいということを考えながらレポートを作成し、発表しました。

発表を終え、周囲の反応、当日の雰囲気などから、発表して良かった！という実感を持つことができました。プレゼンを使った発表も、御好評いただけましたようでした。

当日は、参加者の皆さんの反応を知りたいと、アンケートを独自に作成し、お配りさせていただきました。午前中に回答をお願いし、記入の時間があまりなかったにもかかわらず、231名の参加者の中71名もの方々にアンケートを返していただきました。今回、皆さんにそのアンケート結果をお返ししたいと、県事務研会報の紙面をお借りした次第です。

( アンケートの内容を、今回資料として掲載させていただきました。ご了承下さい。 )

2 アンケート集計結果



このように、幅広い年齢層から反応をいただいています。中でも、20代の若い学校事務職員の反応が最も大きかったことが分かります。また、県外からの参加者にも、返していただいています。

1) この発表を聞いて、どのように感じられましたか？

ここでは、発表を聞かれた直後の、率直なご意見を書いていただきました。記述式ですので全て掲載することはできませんが、少し紹介します。

実践することの大切さ (PRすること) をつくづく感じた。とともにやる気が出てきた！

(20代)

とても積極的に活動されていることにとっても感銘を受け、反省しました。行動をする！ということをも自分もしなければ！と思いました。(30代)

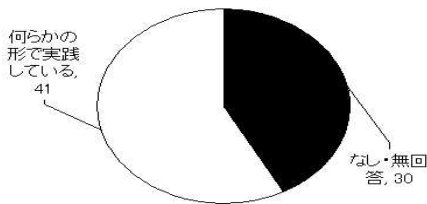
若い人が頑張っておられ、すばらしいと思いました。(40代)

意欲を出しておられ、若さを感じました。(50代)

このようにほとんどの方々が、肯定的な意見を書いてくださいました。中でも目立ったのが、20代、30代の方々の(職をPRする取り組みを)学校に帰ってからすぐに試してみたい！という声です。やはり、少数職種である我々が、「職をアピール」することの必要性は、皆さんが日頃感じていたのだということが分かりました。この分科会に参加していただく事で、そのことについて考えるヒントになったのだと、嬉しく感じています。

ただ、一つ気になったのが、「私は大規模校だから余裕がない」「小規模校だからできるんだ」といった意見です。今回我々が言いたかったのは、壁新聞、事務室ニュースをやりましょうということではありません。子どもや地域、職員に視点を向けて、何か始めてみましょう！ということなのです。それぞれの学校規模、個々の特性に合った取り組みを考えてみませんか。

2) 存在感のある学校事務職員になるために、なにか学校において実践していますか？何かありましたら教えてください。



このように、半数以上の方が、何らかの実践をされていることが分かります。具体的な取り組みとして一番多かったのは、「職員向け事務室便り」発行です。41名中16名の方が発行していました。また、少数意見として、

児童数の少ない学校なので、個人として、保護者や子ども達との会話を積極的にとるようにしている。(20代)

掲示板活動を、告本さんのような監事として細々とやっています。今までの研究会集録や、学校事務誌の中からヒントを得て取り組んでいる。ただ、事務職員の中だけで終わっていないか？私の中で「やりくり」しているだけではないか？模索中です。(30代)

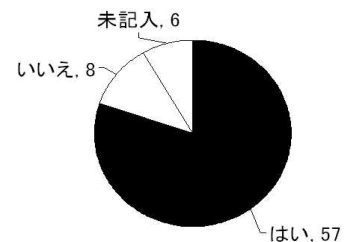
職員、地域の要望にはできるだけスピーディーに答え、改善できるものは実践している。(施設、設備の充実、宮繕等。)(50代)

等々、たくさんの取り組みを紹介していただきました。この他にも学校事務職員として存在感を見出すために、積極的に様々な取り組みを工夫されている事が分かりました。

3) 今回のレポートを聞いて、何か実践してみようと思われましたか？

ありがたいことに、たくさんの方が、我々の発表を聞いて学校に帰ってから何か実践してみよう！と感じて下さったようです。

我々が今回の発表を通して皆さんに伝えなかったのは、まさにこのことです。私たち一人ひとりが、個人個人の実践を積み重ねていくことで、個人及び職としての存在感を見出し、さらには職の確立に繋がっていくのです。また、それが学校全体、そして直接子どもたちのより良い学習環境整備に繋がるならば、素晴らしいことだと思います。



4) 3で、はいと答えられた方にお尋ねします。具体的にどんなことをやりたいと思われますか？

多かったもの(複数回答あり)

事務室壁新聞	16名	職員向け事務室便り	7名
児童、生徒向け事務室便り	6名	保護者向け事務室便り	3名
具体的には思いつかない	9名		

他にも、たくさんの意見をお寄せいただきましたので、紹介します。

まずは子ども達向け(子どもと学校に視点を置いて)に事務職員の存在を知らせたいそして担任やその他の職員との接触(関わり)を増やしたい。(20代)

保護者、地域への発信をどうするか考えていたところなので、今回の発表を参考にさせてもらおうと思っています。(30代)

児童会とタイアップして、子どもアンケートを本校でも採り入れたいと思います。(40代)

頭に残る俳句や川柳を掲示に生かす。各種注意事項など。(50代)

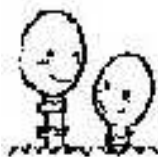
3 最後に

個人の実践を積み重ねることで、学校において、学校事務職員としての存在感を高めることができることが、今回の発表で伝わったのではないかと思います。

発表後、たくさんの反応をいただきました。昨年12月には、福岡県三潴郡にお招きいただき、郡事務研究会において再度発表する機会を得ました。

ここで、アンケートに御協力いただいた皆様、その他御協力いただいた方々にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

子どもたちの学習環境整備のため、それから学校事務職員としての存在感を高めてゆくため、これからも共に頑張りましょう！



## 第4回

# 理事会だより



H15.2.27(木)

於：水前寺共済会館

2月の末、春も間近と思われるような暖かくよく晴れた一日、今年度最後の理事会を開催しました。議事内容については以下のとおりです。

### 平成14年度 県事務研活動の総括

本年度の事業の基本方針について、事務局と研究部より総括及び報告がなされました。また、事務局より一般会計の中間報告及び大会会計の決算報告がなされ、それぞれ現時点での確認を行い、事業報告及び一般会計については一部修正を加えました。

### 第29回県大会について

第29回県大会については前回理事会までに決定したことの最終確認を行いました。

期日については平成15年10月23日(木)～24日(金)、全体会場は今年度の反省をもとにメルパルク熊本からテトリア熊本内の鶴屋ホールに移して準備を進めます。

なお、分科会の会場もパレアホールを始めとして、すべての分科会をテトリア熊本内で行う予定です。

### 事務必携について

研究部より学校事務必携編集経過について報告がありました。2003年度版は3月中に各地区へ発送します。今年度中にはそれぞれの学校にお届けできますので、ご活用の方よろしく申し上げます。

ここ数年は不況の影響でしょうか、広告収入の減少が続き、単年度で見ると赤字が続いています。事務必携の発行も今年で20回を数えますが、従前から出ていた有料化の問題を検討いたしました。結論を出すまでにはいたりませんでした。有料化の他、ホームページに掲載する等々の案も考えられます。次年度、研究部から詳しい案が理事会に提案される予定です。

### 機構整備について

機構整備委員会から出された答申に基づいて理事会でも時間をかけて協議を重ねてまいりました。今年度は事務局員の選出方法について、透明性と公平性をもった選出方法を論議してきました。前回の理事会だよりでもお伝えしましたように、県内を県北、県央、県南の3つのブロックに分け、各ブロックのローテーションにより、該当地区から2名程度選出することとなりました。次年度から新たな事務局体制がスタートします。

なお、今後も副会長、事務局長、研究部長の選出方法等、引き続き理事会で協議を続けていくことを確認しました。